古典芸能を‘偏愛’する二人のトーク&レクチャー

おしゃべり古典サロン

知れば知るほどおもしろい！

なんと1日に連続2回講座！

4時間の通し解説に挑む！

キノカブ上演記念特別企画

三人吉三廓初買

さんにんきちさくるわのはつがい

刀と金が巡り巡っての三人吉三を中心に展開する因縁と恩愛の物語

2017年から始まった「おしゃべり古典サロン」も7年目に入り、2021年より『仮名手本忠臣蔵』をテーマにおしゃべりしてきました。
今回は秋に、三重県文化会館で講師の木ノ下裕一さんが主宰を務める木ノ下歌舞伎『三人吉三廓初買』の上演に先駆け、おしゃべり古典サロン特別企画として4時間におよぶ通し解説!!「三人吉三廓初買」について、前編（vol.13）と後編（vol.14）の2回にわけてとことんおしゃべりをしたいと思います。

※vol.13、vol.14それぞれ単独のご受講でもお楽しみいただけます。

講師

撮影：東直子

木ノ下裕一
木ノ下歌舞伎主宰

撮影：渡邊肇

田中綾乃
三重大学人文学部准教授

7月6日（土） MIE CENTER FOR THE ARTS 三重県総合文化センター 三重県文化会館 小ホール

vol.13 13:00〜15:00 12:20 受付開始 12:30 開場

『三人吉三廓初買』前編 〜因果譚〜

安森家では将軍家からお預りの名刀・庚申丸を盗まれたため、御家は断絶。息子はお坊吉三と呼ばれる盗賊になり、娘は吉原へ身売りして、一重という花魁になっている。庚申丸は、道具屋の木屋文蔵の手に渡るが、それを百両で求める侍に売る。木屋の手代の十三郎は、その使いの帰りに夜鷹のおとせと出会い、受け取った百両を忘れる。おとせは、十三郎に百両を届けようと探すうち、大川端で女装の盗賊・お嬢吉三に金を奪われて、川へ落とされる。

お嬢吉三は、偶然にも通りかかった悪党から庚申丸も奪う。その様子を窺っていたお坊吉三は、百両を巡ってお嬢吉三と争うが、そこへ仲裁に入ったのは、元坊主で盗賊の和尚吉三。同じ吉三という名を持つ三人の盗賊は、義兄弟の契りを結ぶのだった。

一方、金の紛失から身投げをした十三郎は、和尚吉三の父の伝吉に救われた。また、おとせも八百屋久兵衛に助けられ、家に戻った。おとせは伝吉の娘で、和尚吉三の妹。実は、伝吉は安森家から庚申丸を盗んだ張本人。今では改心する伝吉だが、その家でおとせと十三郎は再会。そこへ和尚吉三も戻り、父に百両の金を渡すが…

vol.14 16:00〜18:00 15:20 受付開始 15:30 開場

『三人吉三廓初買』後編 〜恩愛譚〜

道具屋の木屋文蔵こと文里は、吉原の花魁の一重に想いを寄せ、座敷に通い続けている。当初、一重は妻子ある文里の求愛を拒み続けていたが、ついに二人は恋仲となる。一重が安森家の娘だと知った文里は、その昔、安森家に世話になったこともあり、庚申丸を取り戻して御家再興の力になることを約束する。

その後、文里は一重に入れ揚げ、また、十三郎が紛失した百両のために没落する。文里の窮地を救いたいと考える一重に横恋慕する釜屋武兵衛は、文里と別れることを条件に百両を融通しようと持ちかける。一方、かつて文里に救われたお坊吉三は、文里のために百両を盗もうとして、和尚吉三の親と知らずに伝吉を殺すのだった。

家業が傾いた文里がしばらく廓から遠ざかっていたところ、文里の子を身籠っていた一重は、子どもを出産した後、病いに倒れて余命いくばくもない。それを知った文里の女房おしづは、文里と一重との間の子を引き取り、自分がその子を育てると申し出る。そして、夫の文里を一重のもとへ向かわせると…

キノカブ渾身の5時間におよぶ一大エンターテイメント！

三重県総合文化センター開館30周年記念事業
東京芸術劇場 Presents

木ノ下歌舞伎「三人吉三廓初買」

作：河竹黙阿弥　監修・補綴：木ノ下裕一　演出：杉原邦生［KUNIO］

10月13日（日）13時開演 三重県文化会館中ホール 全席指定

木ノ下歌舞伎
歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演目上演の可能性を発信する団体。あらゆる視点から歌舞伎にアプローチするため、主宰である木ノ下裕一が指針を示しながら、さまざまな演出家による作品を上演するというスタイルで、京都を中心に2006年より活動を展開している。三重県文化会館では「黒塚」（2015年）「心中天網島」（2017年）以来3度目の上演となる。

主催：三重県文化会館［指定管理者：公益財団法人三重県文化振興事業団］　共催：三重県生涯学習センター